

# 阿南 ぶらりまち紀行

～地域の輝き～

第111回

ふるさと「阿南市」の素晴らしい魅力を再発見！



広域水環境保存会（長生町）

ここ数年、草が生い茂って荒れた農地がめだつてきた。農業従事者の高齢化や労働力不足、また農作物の価格低迷といった農業経営条件の悪化が大きな要因となり、管理できていない状態で放棄されている。耕作放棄地とよばれ、全国的に増えてきている。阿南市も例外ではなく、33・6ヘクタールもの土地が耕作放棄地となっている。耕作放棄地は、病害虫増加の温床となるほか、鳥獣被害、雑草の繁茂、用排水施設の管理への支障、土砂やごみが無断投棄されるなど周りの環境にさまざまな悪影響を与える。この状況を打破しようと、長生町では農地を広域的に共同で管理する取組が行われている。広域水環境保存会 会長の岩佐俊彦さん（75歳・長生町）は「生まれ育ち、暮らしてきた土地が荒れていくのを見るのがつらかった」と振り返る。「1人の力はたかがしれている。みんなで力を合わせて、愛するふるさとの土地を守りたい」。ふるさとの原風景を守るため、皆が手と手を取り合った。



始めに長生町のそれぞれの地区で共同組織を結成し、2年前に4地区（宮内、三倉、大谷、西方）で合併し広域化した。今では管理している面積は110ヘクタールにもなる。また、生活環境の美化をめざして、決めた日に皆で、通学路や農道沿い、耕作放棄地を中心に草刈り、除草を行ったほか、「花いっぱい運動」として、プランターにサルビアや日々草などの花を咲かせ、生活道沿いに置いた花に囲まれて気持ち華やかになると好評だ。

去年からは、水士里ネット徳島と連携し、生き物調査をはじめた。3年間、水路の追跡調査を行い水環境の変化を捉える取組だ。今年も地元の長生小学校3年生22人が水路を調査すると、エビやドジョウ、ヤゴ（トンボの幼虫）など多様な生き物が確認された。会の皆さんは、「地域の自然に触れて、地元の子どもたちに郷土愛を育んでほしい」と願う。先祖から受け継いできた土地をきれいな状態で子や孫の代へ引き継ぎたいとの一心で、日々活動を続けている。

